

疎播疎植・ペースト2段施肥による「みどりの稲作」プロジェクト

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 農研機構東北農業研究センター 松波 寿典

2 研究期間：令和5年度～令和8年度（4年間）

3 研究目的

健苗となる疎播、生育が旺盛になる疎植栽培および根の発達に適したペースト2段施肥を組み合わせ、プラスチック被覆の肥効調節型肥料を使わない新たな稲作技術を確立する。

4 研究内容及び実施体制

① 2段施肥体系下における疎播疎植イネの収量ポテンシャル発現技術の開発

収量を最大化させるための2段施肥に適した健苗育成法、養分吸収が優れる根系誘導技術、多収草型誘導技術を開発する。

（大阪公立大学農学部、山形大学農学部、岩手大学農学部）

② 各地域に適応した疎播疎植・高精度2段施肥体系による省力多収栽培技術の確立

各地域に適した技術体系を確立するとともに生育指標、施肥基準を策定し、現地実証による技術の評価とブラッシュアップを行う。

（青森県産業技術センター、岩手県農業研究センター、宮城県古川農業試験場、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、大分県農林水産研究指導センター、農研機構東北農業研究センター）

③ 疎播疎植・高精度ペースト2段施肥体系の社会実装の加速化支援本技術の普及拡大のために米の品質評価と経済性評価を行う。

（合同会社 i-DCR 国際食料問題研究所、株式会社パディ研究所）

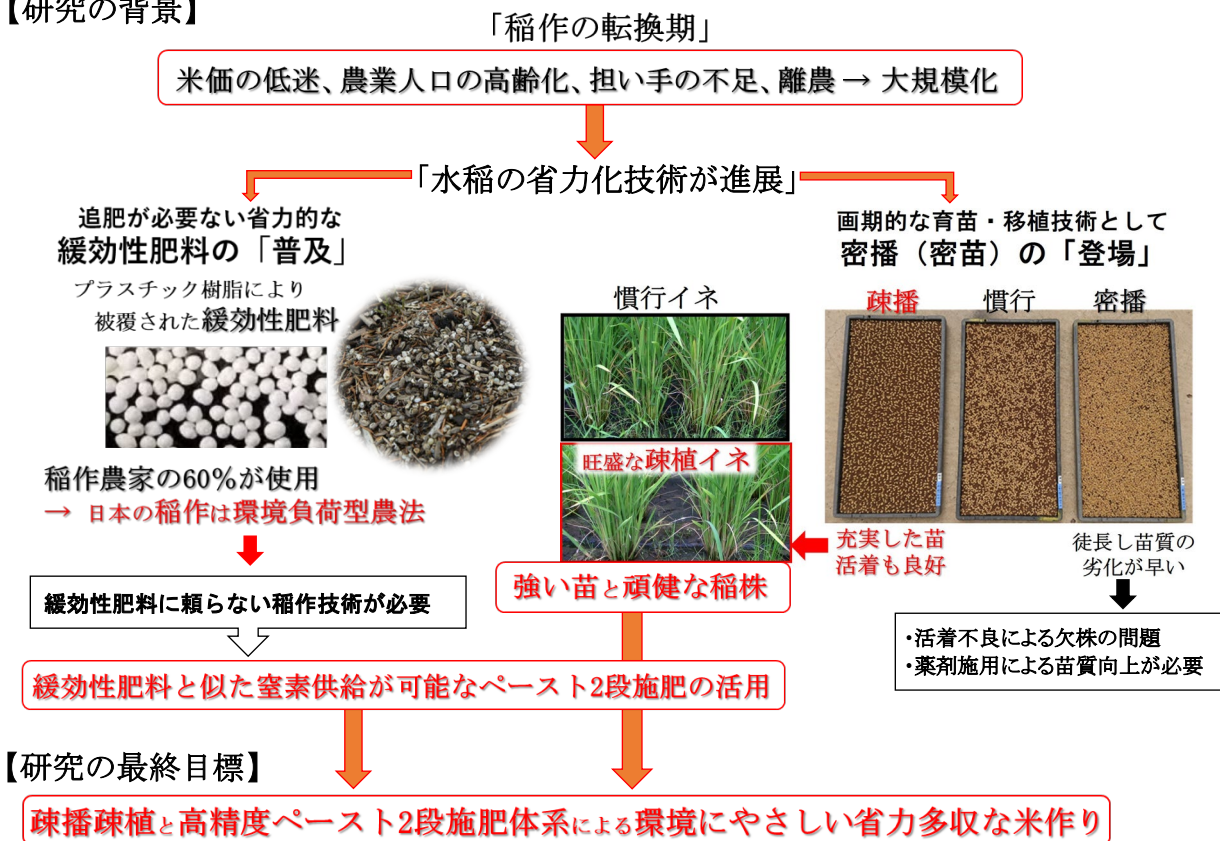
5 最終目標

疎播疎植と高精度ペースト2段施肥による省力的で生産性の優れる環境にやさしい新たな稲作技術を確立し、全国的な普及展開を行う。

6 期待される効果・貢献

肥効調節型肥料に替わる環境にやさしい稲作りへの転換と国内外の消費者への安心、安全で美味しいお米の安定供給の実現に貢献できる。

【研究の背景】



【研究内容の概要】

